

(詳細評価様式)

農業農村整備事業等事後評価地区別資料

都道府県名	埼玉県	関係市町村名	羽生市
事業名	県営ほ場整備事業	地区名	てこばやしだいに 手子林第二
事業主体名	埼玉県	事業完了年度	平成16年度
〔事業内容〕 事業目的： 本地区は、埼玉県北東部に位置する水田地域である。 事業実施前は、農地の区画は小さく不整形であり、道路も狭く農作業は小型作業機械の使用に限られていた。また、粘質土壌で用排水兼用の土水路のため排水性は悪く、適正な水管理ができない状況であったため、本地区は規模拡大により担い手が育つ環境ではなかった。このため、農地の大区画化、用排水路や道路の整備により、農地の集団化と大型機械の導入を可能とし、営農の低コスト化と担い手育成を目的に本事業を実施した。 総事業費：1,295百千円 事業期間：平成8年～平成16年度 受益面積：71.2ha（田60.2ha、畑11.0ha） 受益戸数：156戸 事業内容：整地工 A = 71.2ha、排水路工 L = 10.7km、道路工 L = 11.0km 暗渠排水工 A = 60.2ha 用水路工 L = 10.8km			
〔項目〕 ア 事業効果の発現状況 (1) 収量の変化 本地区は、受益面積 71.2ha の約 85%にあたる 60.2ha が水田として営農されている。本事業により、用排水が分離され、適正な水管理が可能となり、彩のかがやきを中心とした水稲が栽培されている。 本地区における水稲の収量は、事業計画時点が 482kg/10a、今回の事後評価時点では 519kg/10a となり 10a 当たり 37kg 収量が増加した。 (2) 営農時間の短縮 不整形だったほ場が 30a 以上の大区画に整備されたことや、農道の拡幅整備により農作業機械の大型化やスムーズな通行が可能となり、作業時間が半減するとともに用水のパイプライン化による水管理時間の大幅な減少が実現した。 ・地区内のほ場の主な機械作業時間（耕うん、代掻き、田植え、収穫） 整備前 21.8時間/ha → 事後評価時点 10.4時間/ha ・水管理時間 整備前 75時間/ha → 事後評価時点で 23時間/ha ・農作業機械の変化 地域の機械台数の減少割合は全県と比較すると高くなっている。 大型機械は全県と比較すると増加しており、小型機械は減少している。 (3) 地域を支える担い手の活躍 ほ場整備を契機に地区内にいなかった担い手が 9 名育成され、地区内の約 44%にあたる 31ha の農地が担い手農家に集積され規模拡大が図られた。整備により担い手による経営規模の拡大が容易になり、賃貸借も進み本地区では耕作放棄地は見られず、全て優良農地として利用されている。なお、担い手の多くは、周辺の整備地区を含めた地域においても活躍している。			

(4) おいしい米づくりへの取組み

本地区では県育成品種「彩のかがやき」の導入が進み、担い手の地区内作付面積31haのうち、45%も栽培される品種となっている。平成19年度には担い手の一人が米・食味鑑定士協会主催による全国コメ食味コンクールの品種別部門にて、初めて県産品種「彩のかがやき」で入賞を果たした。

(5) 新たな試み

本地区を中心に活躍する担い手の一部で、水田に魚道を設置しメダカ等を育み、環境に配慮することでブランド化を目指す米作りの取り組みが行われ始め、地域への波及が期待される。今後は環境配慮の取り組み効果の明確化や、農家間の情報共有、消費者への情報発信といったことも関係機関で支援していく。

イ 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された道路と排水路の管理は市が行っている。なお、排水路の土手などの日常的な管理（点検、清掃、草刈り）は地元自治組織と各受益者により適切に行われている。

ウ 事業実施による環境の変化

(1) 農業生産環境

地区内農家アンケートによると農作業の効率化だけでなく、整備前に日常的にあった軽トラックの脱輪横転や対向車等の心理的な不安がなくなったことが経営面積を増やす上で目に見えない影響として大きい。整備により、耕作放棄もなくなり「美しい農村風景に生まれ変わった」等の回答も多かった。

(2) 生活環境

本事業により、道路が整備され、安全な通学路や生活道路としても利用されている。また、緊急車両の通行もスムーズとなり、暮らしやすい安全な地域社会の形成に役立っている。

エ 今後の課題

事後評価アンケートでは、兼業農家の約2割から、5年後に経営規模を縮小したいとの回答があった。一方、専業農家には規模拡大を志向する方もおり、今後も農地の流動化は進むと予測される。現在、44%の農地を担い手が経営しているが、更に作業効率を高め、儲かる農業を行うためには、隣接の基盤整備地区も含めた広い範囲で集積とあわせて団地化を進める必要がある。また、集積による作業性の向上だけでなく栽培品目の団地化を行い、水稲以外の作目の作付拡大を図るなど、高齢化する現在の担い手（平均年齢64歳）の次世代の担い手が育つ農村とする必要がある。

事後評価結果	<ul style="list-style-type: none">・ 本事業により区画の整形、拡大や農道の拡幅整備など生産基盤が整備され、作業コストの低減、農地の利用集積が進み、9人の担い手が育成されている。・ 現在、耕作放棄地がなく、担い手を中心に周辺地区も含め生産活動が行われていることは、本事業の効果として高く評価されている。・ 羽生市においても、整備に躊躇し不耕作化の進んでいる周辺地域に本事業地区を担い手集積のモデルケースとして紹介するなど、地域農業の振興に寄与しており、本事業の効果が高く評価されている。
第三者の意見	

(注1) 「事後評価結果」欄は、項目の内容を総括して記入する。

(注2) 「第三者の意見」欄は、第三者の意見のうち特記すべき内容について記入する。

区画の大区画化

施工前航空写真

10a区画

平成9年8月撮影



不整形 6~10a

1,625筆

施工後航空写真

30a区画

平成11年10月撮影



整形 30a以上

523筆

事業実施前後の状況

(1) 農地の大区画化

実施前

実施後



ブロック分けで、水稻と小麦を作付



区画は狭く、大型機械が使えないため多くの労力

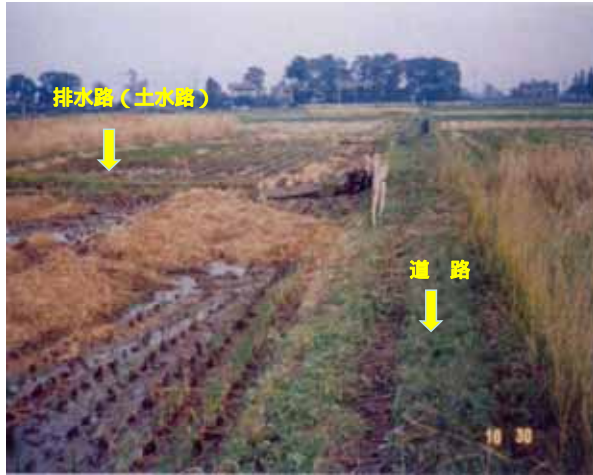
大型機械の導入が可能。作業時間も大幅に短縮

事業実施前後の状況

(2) 道水路の状況

実施前

実施後



排水路を柵渠護岸し、水田に暗渠排水を整備。用水はパイプライン化され水管理の労力が大幅に省力化。



大型機械の導入が可能。すれ違いも容易で移動時間が短縮。

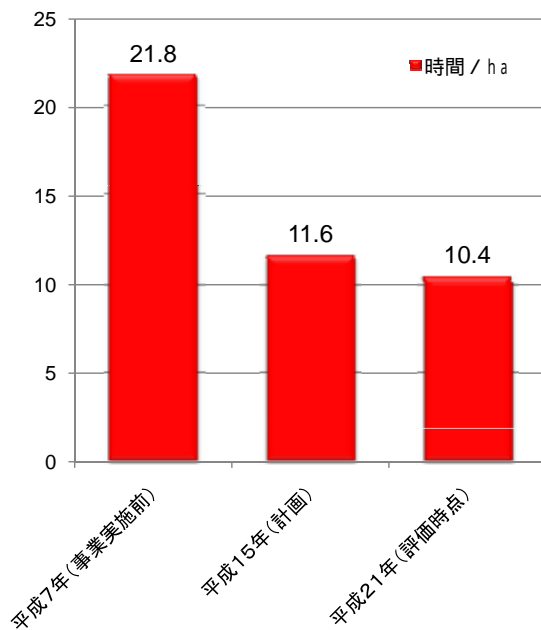
水路は土水路で、用排兼用で使われていた。土砂の堆砂や法面の崩壊等により、維持管理に多くの労力。

道路は狭く、轍となり危険な状況。すれ違いも出来ない。

雑草が茂り維持管理に多くの労力。

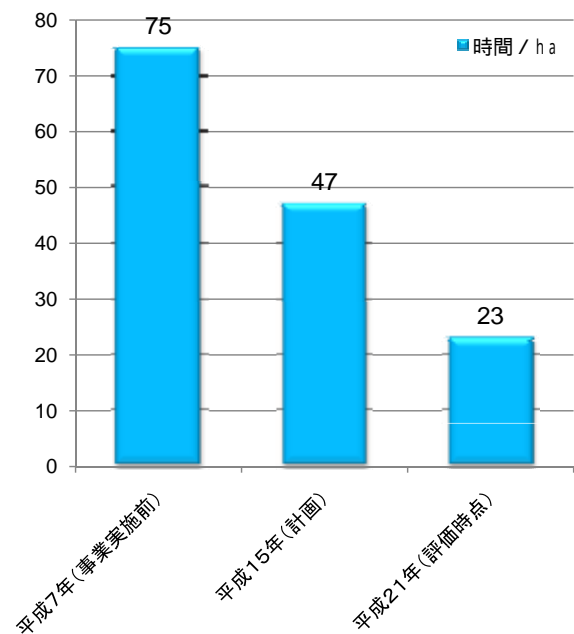
水稻の作業時間

労働時間の変化



労働時間の変化 (耕うん、代かき、田植え、収穫)

水管理時間の変化



水管理時間の変化

年度	時間
平成7年(事業実施前)	21.8時間 / ha
平成15年(計画)	11.6時間 / ha
平成21年(評価時点)	10.4時間 / ha

年度	時間
平成7年(事業実施前)	75時間 / ha
平成15年(計画)	47時間 / ha
平成21年(評価時点)	23時間 / ha

農作業機械の変化

手子林地域の農業機械台数と全県における農業機械台数の推移
(H7を基準とした変化の割合)

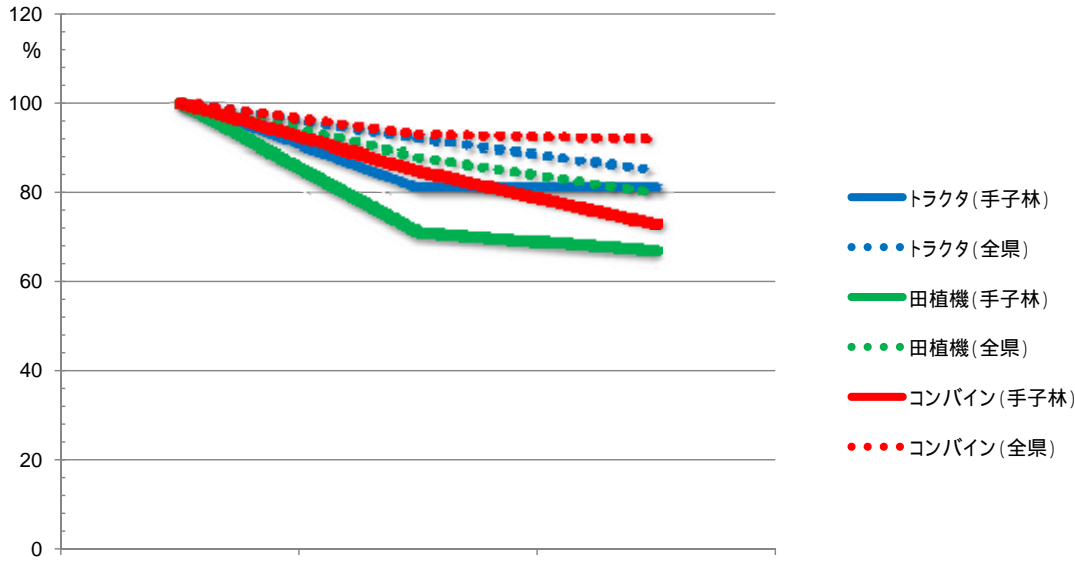


表1 地域の農業機械台数と全県における農業機械台数 (単位:台)
(農林業センサス 羽生市手子林村)

	乗用トラクタ		田植機		コンバイン	
	全県	手子林	全県	手子林	全県	手子林
H7	61,376	333	39,777	295	32,204	264
H12	56,721	273	35,121	211	30,161	225
H17	52,668	270	31,949	198	29,734	195
増減割合 (H7 / H17)	85%	81%	80%	67%	92%	73%

機械台数の減少割合は、全県と比較すると高くなってきている。

農作業機械の変化

手子林地域と全県における農業機械の規格別台数の推移
(H7を基準とした変化の割合)

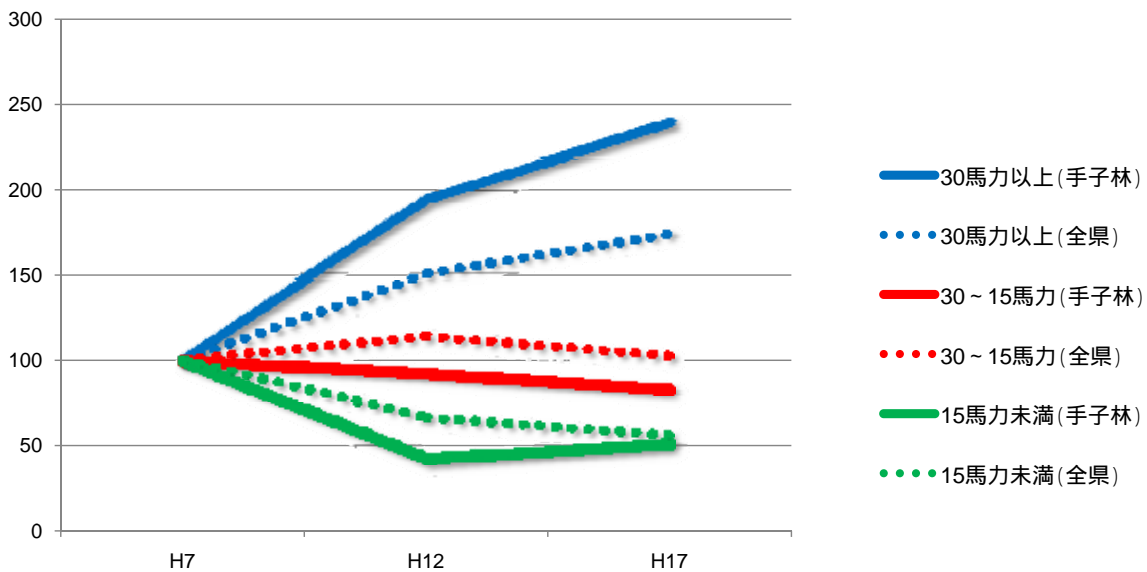


表2 地域の乗用トラクタの規格別台数 (単位:台)
(農林業センサス 羽生市手子林村)

	30馬力以上		30～15馬力		15馬力未満	
	全県	手子林	全県	手子林	全県	手子林
H7	6,120	18	32,241	210	16,015	105
H12	9,219	35	36,861	194	10,641	44
H17	10,678	43	33,040	174	8,950	53
増減割合 (H7 / H17)	174%	238%	102%	82%	55%	50%

大型機械は、全県と比較すると増加しており、小型機械は減少している。

農地の集積状況について

担い手への農地集積面積と集積率

実施前 (H7)



担い手候補者の経営面積
1.15 ha (シェア1.3%)

地区内認定農業者 0名

実施後 (H21)



担い手の経営面積
31.0 ha (シェア43.5%)

地区内認定農業者 9名

おいしい米づくりへの取組



知事表敬訪問



全国コンクール受賞(H19)前列左4人目

埼玉生まれ羽生育ちの「彩のかがやき」のおいしさが全国コンクールで認められました。

おいしいお米日本一を選ぶ全国 米・食味分析鑑定コンクール品種別部門で全国各地2,100点以上の優良米が出品される中、本地区の担い手である間篠氏が見事、特別優秀賞を受賞しました。

新たな試み

今年度より間篠氏は本地区に隣接する手子林第一地区で、水田と水路を結ぶ水田魚道を設置して生きものを育む、減農薬の安全安心な米づくりにチャレンジしています。



施設の管理状況、環境の変化



道路脇はきれいに草刈りがされ、水路脇はグランドカバープランツの植栽で景観に配慮し草刈り軽減。



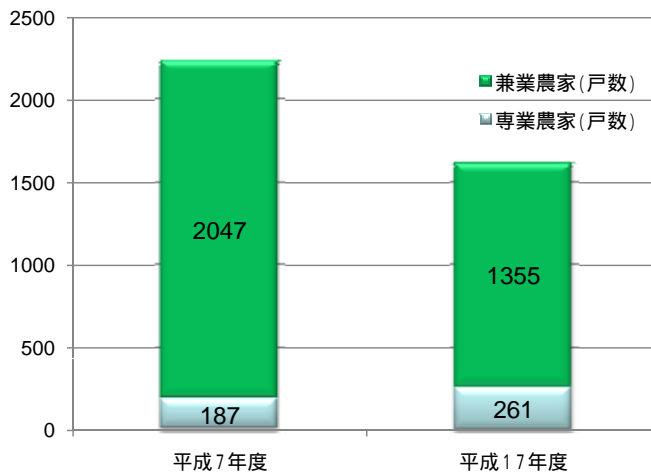
営農が不便なため意欲もなくなり耕作放棄化していた農地



整備されたほ場では、機械化が進み耕作放棄地は全て解消され、美しい農村風景に生まれ変わった。

今後の課題

専兼別農家戸数の比較(羽生市)

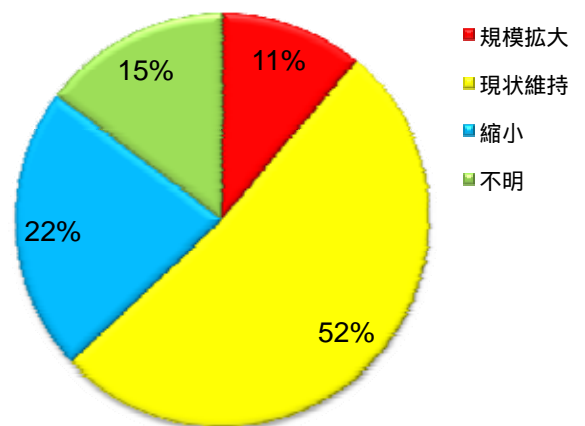


	平成7年度	平成17年度
専業農家(戸数)	187	261
兼業農家(戸数)	2047	1355

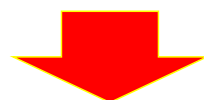
兼業農家は減少し、担い手農家が増えている

5年後の農業について意向調査

(地区内農業者抽出アンケートより)



規模拡大1割、規模縮小2割



今後も農地の流動化は進む、基盤整備の完了した農地で、更に作業効率を高めるためにも、分散している担い手経営ほ場の面的な集積が必要である。

農地の面的集積のイメージ

平成21年度
担い手集積状況



将来の
担い手面的集積イメージ

